



1年で壊れてしまうパーツを販売することに不信感覚えた

名門ブランドと信じて購入したのがっかり

本誌8月、9月号で掲載したイタリアの名門バイク、ドウカティでの車両トラブル疑惑。この案件は現在でもドウカティジャパンとの調停を続けている長田さんによる本誌編集部への告発がきっかけとなった。その後、記事を見たという車両トラブルが起きたドウカティオーナーから悲痛な叫びが続々と届いた。その中から連絡が取れ、詳細な話を聞くことができた2名の話を掲載する。

まず、1人目はドウカティ848のオーナーだったAさん。Aさんはこの騒動に嫌気がさし、オートバイを手放してしまっただ。

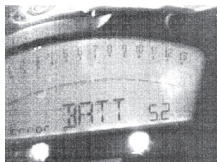
2010年3月にドウカティ848が納車されたAさん。手放すまでの2年半の間で起きたトラブルの大半は突然、エンジンがかからなくなるというものだった。このトラブルの原因が長田さんの1098Rではリコールとなったボルテージレギュレーターだったのだ。

Aさんのバイクは手放すまでに2回ボルテージレギュレーターの交換を行っている。1回目が納車して1年も経たない2010年12月。そして2回目も2011年11月。そしてAさんは故障したときにボルテージレギュレーターが壊れやすい場所であり熱に弱い。しかもトラブルは突然起こるとい話をショップのスタッフから聞いたと話してくれた。

Aさんによると2度目のボルテージレギュレーターの高速度走行中に起きたという。高速走行中突然スピードが落ち、運良く路肩にたどり着くことができたものの、もし、後ろにクルマがいたら追突されていたかも、ということなので速度低下はかなり大きいことが考えられる。そしてAさんがインパネを見るとローバッテリーの表示が出て、まったくエンジンがかからなかったという。ボルテージレギュレー



Aさんが所有していたドウカティ848。排気量は違うが、長田氏のバイクと同じ系統のシリーズのようだ。



インパネにはバッテリーの不調を表すBATTの文字が表示されている。



ボルテージレギュレーターが壊れた時にAさんがとっさに撮影したインパネ。

Aさんが販売店との縁を切ることで割引された修理代金。その後無償修理とするも、もったいなくてAさんがとっさにと協議すべきでは。

Aさんの故障により、バッテリーに電気が充電されていない状態だったのだ。ショップへ修理に持ち込むとスタッフはただ、壊れやすいパーツなのでと平謝りだったという。一度目のトラブルは保証内だったので、無償で修理してくれた。しかし二度目のトラブルではAさんに対して販売店は修理費用7万9000円を平然と請求してきたのだ。これに怒ったAさんは販売店に電話をすると、販売店のスタッフは10000kmか1年ごとに壊れるものなんです。と答えたのだ。Aさんは猛抗議した末今回のことで、販売店を縁を切ることを条件に工賃のみ15000円を支払い、バイクを売却した。しかも売却後にドウカティジャパンアフターセールス部から「販売店と協議の結果、修理料金は無償にします」という連絡が…。

BIG BIKE CITY

お問い合わせ先
 営業所 横濱 長約担当名 長田 義之 整備担当名 坂方 隆一
 ドウカティ 横濱

整備納品請求書
 (分解整備記録簿)

2012年07月30日
 MK0043224

顧客番号	住所	フリガナ	氏名	自宅TEL	E-Mail
メーカー	車名	年式	車体色	登録番号	登録年月日
ドカティ	848	2010	赤		
車台番号	排気量	走行距離	総走行距離	車検満了日	目録満了日
車種	納車方法	保証会社			
オートバイ					

お見積り項目	エンジン不調
--------	--------

No	作業内容	部品・部品番号	記号1	記号2	数量	単価	部品代	工数	工賃
1	その他(廃動機)	11020217 78717	X	交換	1.0	0	0	0.0	15,000
2	その他(廃動機)	1020217 78717	X	交換	1.0	0	0	0.0	0
3	その他(廃動機)	1040217 78717	X	交換	1.0	0	0	0.0	0
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									

課税対象	0	非課税対象	0
① 部品・工賃	15,000		
② 課税対象	0		
③ 消費税	750		
④ 非課税対象	0		
⑤ 前受入金	0		
御請求額	15,750		
御請求残額	15,750		

換算代行手数料	0	重量税	0
点検整備料	0	印紙代	0
検査料	0	自賠責保険	0
事務手数料	0	その他	0
配送料	0		
ローン手数料	0		
その他	0		
合計	0	合計	0



Aさんが今回縁を切ることになったドウカティの販売店は奇しくも長田氏と同じだった。

編集部へ届いた

ドゥカティオーナーの

悲

走行中突然アクセルが全開になって暴走した

質問状を出しても納得いく返事がない

次はドゥカティモンスター400というモデルで起こったトラブルを紹介する。Bさんは2011年9月23日に福島県EBSUサーキットで行われた元GPライダーが主催するライディングスクールに自分のバイク、ドゥカティモンスター400

を積載車に積んで参加していた。レースの内容はサーキットを全開で攻めるというのではなく、ライディングスタイル&ポジションの向上を目的としたもので、走行スピードも公道と同じぐらいだったという。

高低差のあるサーキットを5000回転で走行中、ギアを2速から3速にシフトアップしたときにアクセルが戻らなくなるといってトラブルが

を積載車に積んで参加していた。レースの内容はサーキットを全開で攻めるというのではなく、ライディングスタイル&ポジションの向上を目的としたもので、走行スピードも公道と同じぐらいだったという。

高低差のあるサーキットを5000回転で走行中、ギアを2速から3速にシフトアップしたときにアクセルが戻らなくなるといってトラブルが

突然発生した。アクセルは全開の状態となり、パニックになったBさんは前方を走る車両を避けるためにブレーキング。その結果、バイクが暴れ出しバイクはコースサイドに投げ出され、Bさんも路面に叩きつけられた。普通、コースサイドに投げ出されたバイクはエンジンが止まるのだがなぜかアクセルが全開のまま。ふたたび暴走する可能性があるの、急いで、エンジンを切ったという。Bさんは「落ちていていれば、キルスイッチでエンジンを止めれば良かったのですが」と話してくれたが、走行中いきなりアクセル全



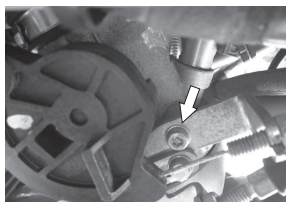
サーキットでの事故だったので、バイク自体も大きな傷を負わなかったのは不幸中の幸い。



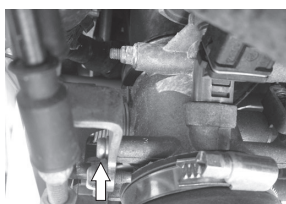
トラブルが起きて、転倒した際についたハンドルのグリップの傷。引きちぎられた感じでかなり痛々しい。



マフラーにも大きな傷跡が残っている。このまま乗るのは忍びないが、修理費用はかなり高額になるという。



矢印のボルトが緩んだことで、アクセルワイヤーに引っかかりアクセルが戻らなくなったのだ。



ボルトが刺さっている部分を横から見た。緩み止めのロックタイトが塗ってあるのだが、耐用年数は未定。

■ご質問に対する回答書

2012年8月9日
ドゥカティ・ジャパン 株式会社
アフターセールス部マネージャー

過日ご送付いただきました質問書に関して、下記の通り回答いたします。

DUCATI モンスター400 不具合に関する質問書

① 回転したスクリーンは点検整備の義務がある箇所であったのか?
回答: 該当スクリーンを指定しての点検/整備の義務はございません。しかしながら、オートバイ全体のボルト・ナットの締付け確認を行う点検項目がございます。

② 記①のスクリーンが点検義務のない箇所であった場合、それは外れない(緩まない)前提で作られているのか?
回答: 分解又は脱着を行わない前提で作られています。

③ 上記①のスクリーンにロックタイト(緩み止め)を塗布しているがショップより報告を受けたが、であれば、その耐用年数を示しておくべきではないのか?
回答: 分解又は脱着を行わない前提ですので、耐用年数の提示はございません。

④ ロックタイト(緩み止め)はそもそも耐久年数は何年なのか?
回答: 弊社では分かりかねます。

⑤ 駆動のエンジン側のアクセル部分の耐久年数は何年なのか?
回答: 耐用年数の指定はございません。定期点検を実施することにより、オートバイ全体の消耗・摩耗・破損等を見出し、予防整備を行うことで機能・性能を維持しております。

⑥ ショップより高回転での走行はNGと言われたが、高回転での走行で不具合が出る様な商品だったのか?
回答: 高回転だけを基々と使用し続けられ壊れる可能性を否定できません。但し、一般公道でのような使用方法は現実的ではございません。

⑦ 一切他社部品を付けず、改良もせず、ショップでの車検に準じて整備されているバイクにも関わらず、メーターに記されている回転数の半分も回っていない状況で不具合が発生した今回の事例において、どの様に考えましたか?
回答: ドゥカティモーターサイクルは、公道での使用を前提として設計/製作されております。そのため、公道以外の場所で使用し故障等が発生した場合は、製品の状態を担保することができません。また、その状態で発生した故障等については、判断いたしかねます。

Bさんがドゥカティ・ジャパンに対して出した質問状に対する回答書。全4ページに及びFAXには弊社ではわかりかねます。という文字が並ぶ。

開となり、暴走したときに果たして冷静でいられるだろうか。その後バイクを回収して暴走した原因を探ってみると、エンジン側のアクセルの開度を制御する部分に装着されているボルトに緩みが生じ、それが飛び出してアクセルワイヤーに引っかかり、戻らなくなってしまったことがわかった。販売店に対して、トラブルに関して話をすると販売店は整備不良も認めず、車両も取りにくる姿勢もなかったという。ようやく、販売店が取りに来て検証した結果が、Bさんの指摘どおり、ボルトが緩んだ末、アクセルの制御がきかなくなるといって回答だった。しかし、このような前例はなく、車検整備において、この部分を整備していないので、販売店側に100%の過失があるとは言えないと言ってきたが、話し合いの末、謝罪の言葉とともに、今後はドゥカティ・ジャパンとのやりとりになるといわれたという。その場でBさんは車両の保証期間が2年であること、サーキット走行での故障は保証対象外。問題の部分はメーカー側から整備をするなど言われている場所で、車検の際には触っていないと言われた。

そこでBさんはドゥカティ・ジャパンに対して、13項目の質問状を送ったところ、ドゥカティ・ジャパンのアフターセールス部から回答書が届いた。その内容はボルトに塗布しているロックタイトの耐用年数はわからないなど、とても納得のいく回答が得られなかったのだ。このトラブルが公道で起きていたら歩行者などを巻き込みかねないという事実をドゥカティ・ジャパンはわかっているのかとBさんはいきどおっていた。